

# 福祉サービス第三者評価事業 評価結果報告書

評価機関：一般社団法人 香川県福祉サービス評価機構

実施年度：令和7年度（評価結果確定：令和7年度）

施設種別：児童養護施設

施設名称：社会福祉法人 弘善会  
讃岐学園

## 第三者評価結果報告書 (児童養護施設)

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

一般社団法人香川県福祉サービス評価機構
---------------------

### ②評価調査者研修修了番号

S2021088 (R3-Y001)
H23-Y014

### ③施設名等

名称:	讃岐学園
施設長氏名:	為定 典生
定員:	45名
所在地(都道府県):	香川県
所在地(市町村以下):	高松市前田東町569番地2
T E L:	087-847-5171
U R L:	https://www.kouzenkai.jp/sanukigakuen/

#### 【施設の概要】

開設年月日	昭和27年5月10日
経営法人・設置主体(法人名等)	社会福祉法人弘善会
職員数 常勤職員	36名
職員数 非常勤職員	8名
有資格職員の名称(ア)	社会福祉士
上記有資格職員の数	4名
有資格職員の名称(イ)	保育士
上記有資格職員の数	12名
有資格職員の名称(ウ)	児童指導員任用資格
上記有資格職員の数	12名
有資格職員の名称(エ)	看護師
上記有資格職員の数	1名
有資格職員の名称(オ)	臨床心理士
上記有資格職員の数	1名
有資格職員の名称(カ)	管理栄養士、調理師
上記有資格職員の数	1名、3名
施設設備の概要(ア)居室数	寮舎(大・中・小舎)36室、小規模グループケア施設6室、グリーンホーム2室
施設設備の概要(イ)設備等	居室、小規模グループケア施設(別棟)、グリーンホーム(自立援助施設、別棟)、地域支援室、心理療法室、面談室、談話室、プレイルーム、応接室、事務室、園長室、洗面・洗濯室、脱衣室、浴室、居間、台所・食堂、応接室、倉庫ほか

### ④理念・基本方針

<p>【理念】                  濟世利人((さいせいりにん)                  世の中を救い、人々に利益を施すこと、これが弘法大師の願いであり活動です</p> <p>【基本方針】                  平和な日々を子どもと家族が幸せに暮らせるために                  ○子どもの権利を守ります                  ○安全で安心な生活を保障します                  ○職員は子どもとともに育ちあいます                  ○職員は専門的な知識と力をつけます                  ○家族とともに子育てします                  ○地域の一員としてともに歩みます</p>
---

### ⑤施設の特徴的な取り組み

<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的ケアが必要なこどものための対応として、心理療法担当職員を配置している。</li> <li>・学園内にICT推進委員会を設置してICTを活用した教育や施設内業務の効率化等に取り組んでいる。</li> <li>・里親支援機関として、里親や委託児童への相談・助言、レスパイトの受け入れ等の支援、里親研修の実施や制度の普及啓発活動を行っている。</li> <li>・毎月2回、外部のアドボケイターによるこどもアドボカシーを実施している。</li> </ul>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア) 契約日(開始日)	令和7年7月1日
評価実施期間(イ) 評価結果確定日	令和8年3月3日
前回の受審時期(評価結果確定年度)	令和4年度

⑦総評

<p><b>【特に評価の高い点】</b>                  &lt;職員の確保と定着のための様々な取り組みを意欲的に実施し、それが効果的に機能している&gt;                  前回の評価では、十分な職員確保や業務負担軽減に課題が見受けられたが、その後、新人職員に対するOJTの実施、福利厚生充実、年齢や経験年数の近い職員同士の交流機会の確保、業務効率化の推進等、法人・施設独自の様々な取り組みを継続的に進めている。これらの取り組みにより職員の確保・定着が図られ、職員体制の充実に繋がっていると評価できる。さらに、こうした取り組みは、国が進める施設の小規模化・地域分散化に対応した持続可能な事業運営の観点からも意義が高く、他施設にとっても参考となる実践として周知が期待される。</p> <p><b>【改善が求められる点】</b>                  &lt;こどもが自他の権利や性を正しく認識し尊重できるよう、より実効性の高い養育・支援の充実を期待したい&gt;                  こども同士の性的加害・被害の予防および早期発見については、共同生活という環境や個々の入所背景をふまえると、完全な防止や早期把握が難しい側面もあるが、施設として重要な課題であると捉えている様子がうかがわれた。今後は、これまでに蓄積してきた経験や知見を生かしつつ、環境整備の工夫や職員による継続的な働きかけをさらに推進することが求められる。併せて、こどもが年齢や発達段階に応じて性に関する正しい知識を身につけ、自他の権利や性を尊重できるよう、養育・支援の一層の充実が図られることを期待したい。</p>
--

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

<p>当施設の職員確保と定着の取組みに好評価いただき、光栄です。今後も積極的な職員確保を図っていくとともに、更にOJTを充実させ、人材育成に努めます。</p> <p>改善点として指摘のあった性の課題については、現在、外部研修への参加や講師招聘による学習会、施設内では「性について考える会」で検討を行い、子どもたちへの啓発にも力を入れて支援しているところです。今後も、子どもたちが安全安心に暮らせる生活環境作りに努めます。</p>
--

⑨第三者評価結果 (別紙)

(別紙)

## 第三者評価結果 (児童養護施設)

共通評価基準 (45項目) I 養育・支援の基本方針と組織

### 1 理念・基本方針

第三者  
評価結果

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。

① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体 (パンフレット、ホームページ等) に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取り組みを行っている。	○

【コメント】

理念・基本方針は、定款やホームページ、施設内掲示等により広く周知している。職員に対しては、年度当初の職員会での説明に加え、理念・基本方針を記載したカードの携帯や諸会議での振り返りを通じて周知を徹底している。子どもや保護者に対しては、施設内掲示や受け入れ時の説明、年度当初の家庭通信への記載、職員との話し合いや権利ノートの読み聞かせ等、複数の方法により継続的な理解促進に取り組み、理念・基本方針の浸透が図られている。

### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> こどもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設 (法人) が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

行政や全国児童養護施設協議会等の関係機関からの案内を通じて情報収集を行うほか、県内外の研修や諸会議に積極的に出席し、社会福祉事業の動向や各種福祉計画の把握に努めている。収集した情報は参加報告や回覧等により職員に周知し、適宜施設運営に反映させている。さらに、入所児童数の減少や小規模化をふまえた経営状況のシミュレーションを行い共有するなど、情報分析を通じて施設運営に生かしている。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員 (理事・監事等) 間での共有がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取り組みが進められている。	○

【コメント】

こどもの生活グループの見直しや職員の配置・補充、給与体制等の課題を含む経営状況や人人体制について、諸会議において施設長・事務長から職員に周知するとともに、理事会・評議会に諮り役員との理解を得ることで法人全体で共有し取り組みを進めている。今年度は小規模グループケア施設棟の稼働を再開し、令和9年度には分園型小規模グループケア施設2施設の稼働を目指すなど、現況と国の施策をふまえた具体的な取り組みを推進している。

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

国の施策や施設の理念・基本方針に沿って中長期的な目標を設定し、各種計画を策定している。計画内容は職員に周知され、単年度計画への反映や分園化に向けた土地取得申請等を施設全体の共通理解のもと実行している。実施状況は定期的に確認し適宜見直しを行うなど、中長期的視点に立ち持続可能な事業運営に向けた取り組みを進めている。

② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
<input type="checkbox"/> 単年度の計画（事業計画と収支予算）に、中・長期計画（中・長期の事業計画と中・長期の収支計画）の内容が反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

単年度の事業計画は、中長期の事業計画や収支計画および前年度の振り返りをふまえて策定され、実行可能で具体的な内容となっている。数値目標の設定が困難な施設特性をふまえつつ、理念・基本方針に基づく生活・支援目標や年間目標を明示し、研修報告や各グループの振り返りを通じて成果把握と実施状況の評価に取り組み、計画の適切な進捗管理を図っている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知（会議や研修会における説明等が）されており、理解を促すための取り組みを行っている。	○

【コメント】

事業計画は、こどもの意向確認や半期ごとの各グループにおける目標設定・振り返り、年度当初の職員周知等、定められた時期と手順に基づき策定・実施している。策定にあたっては職員の意見を集約・反映する仕組みを整え、全職員が主体的に関与することで事業計画の見直しを行い、施設全体で共通理解の形成に取り組んでいる。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知（配布、掲示、説明等）されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画に明記された施設の運営方針は、施設内掲示や保護者への文書配布により周知している。養育・支援目標を含む主な内容については、定期的な職員と子どもとの意見交換や日々の関わりを通じて伝えるよう努めるとともに、子どもの理解と意識づけを目的とした資料の配布や掲示を行い、事業計画の浸透に取り組んでいる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取り組み

(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的・計画的に行われている。

① 8 養育・支援の質の向上に向けた取り組みが組織的に行われ、機能している。	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取り組みを実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価（C：Check）を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

子どもの生活グループごとに支援目標を設定し、職員間で定期的に振り返りや共有を行っている。個別支援は、グループミーティングやケース会議、自立支援計画の見直しを通じて実施状況を評価し改善に努めている。第三者評価についても毎年自己評価を実施し、受審期ごとに受審して結果を共有するなど、養育・支援の質の向上に向けた組織的な取り組みを進めている。

② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取り組みを計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

第三者評価および自己評価の結果は、諸会議を通じて職員間で共有し、施設全体で課題分析と改善策の検討・実施に取り組んでいる。改善策は実現可能で具体的な内容となるよう協議・周知を行い、可能なものから順次着手するとともに必要に応じて見直しを行っている。職員の参画のもと課題を明確化し、計画的な改善が図られている。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

#### (1) 施設長の責任が明確にされている。

① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取り組みを明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

#### 【コメント】

施設長の役割と責任は、法人の管理規程により明確に示されている。職員に対しては、諸会議において随時説明を行い周知を図っている。また、有事における施設長の役割と責任についても各種対応マニュアルにおいて、責任体制や職階別の対応方法を具体的に定め、組織としての対応体制を整備している。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取り組みを行っている。	○

#### 【コメント】

施設長は、施設運営に必要な法令等を理解し、取引事業者や行政職員等の利害関係者との適正な関係を保持している。法令遵守に関する研修や勉強会についても、関係機関の会合や研修受講を通じて理解の深化に取り組んでいる。職員に対しては、施設内の諸会議において遵守すべき法令等の周知・説明を行い、理解促進を図っている。

#### (2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取り組みに指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取り組みを明示して指導力を発揮している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
(社会的養護共通)	
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

#### 【コメント】

施設長は、各種報告書や記録、会議等を通じて養育・支援の質の現状を継続的に把握し、評価・分析を行っている。また、情報収集や研修受講により自己研鑽に取り組んでいる。職員に対しては、日常的な指導や相互確認の機会の設定、個別面談の実施、自己研鑽のための休暇や費用支援制度の導入等を通じて、養育・支援の質および専門性の向上に指導力を発揮している。

② 13 経営の改善や業務の実効性を高める取り組みに指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は、人事・労務・財務等の経営状況を適切に把握し、人員配置や環境整備に取り組むとともに、研修や関係機関との会議等で得た情報を職員に周知し、業務の実効性向上に努めている。また、グループミーティングやリーダー会議、各種委員会の設置、施設内研修の実施および必要に応じた指導を通じて、経営改善と業務の実効性向上に取り組んでいる。

## 2 福祉人材の確保・育成

### (1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取り組みが実施されている。	a
<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

定期採用や配置基準に基づく専門職の募集により福祉人材の確保を図るとともに、法人独自の制度として職員定着プログラムを策定している。同プログラムに基づき、OJTによる新人職員の育成・支援、定期面談や自己申告書を通じた意向把握、能力に応じた研修機会の設定、福利厚生の実施等に取り組む、法人全体で職員の定着促進を図っている。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取り組みを行っている。	
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

「期待する職員像等」を就業規則に、「職員の行動指針」を事業計画にそれぞれ明記し、職員に対して定期的な意識づけと振り返りを促している。人事基準は職員室の規程集により確認可能であり、これに基づき昇給を実施している。今後は、労働条件や賃金等の処遇水準について地域性や施設特性をふまえた同種事業間比較や人事考課制度の導入検討等を進め、より実効性の高い人事管理の実施に期待したい。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取り組みや働きやすい職場づくりに関する取り組みを行っている。	○

【コメント】

管理規程に基づき労務管理を行い責任体制を明確にしている。個別面談やコンサルテーションの実施、経験年数や年齢の近い職員同士の交流機会の確保、休暇制度の充実等によりワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい環境づくりに努めている。また、職員定着プログラムや上長による精神面の支援、相談箱の設置等を通じて、職員の心身の健康と安全の確保に取り組んでいる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取り組みを行っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員の経験や職種に応じた研修機会の確保に加え、個別面談の実施等、職員育成に向けた様々な取り組みを施設全体で行っている。今後は、施設長等の上長が個人目標や達成状況を確認し業務遂行能力を具体的に把握するとともに、より支持的・援助的な体制のもと日常的な助言や支援の充実が図られることを期待したい。

② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要な専門技術や専門資格を明示している。	○
<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

「期待する職員像」は就業規則に、施設が目指す養育・支援の基本方針は事業計画に、それぞれ具体的に記載して職員に明示している。職員は研修計画に基づき職務や能力に応じて施設内外の研修に参加しており、計画内容やカリキュラムは毎年度評価・見直しを行っている。職員の養育・支援の質を高めるため、組織的な教育・研修に取り組んでいる。

③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

研修計画に基づき、職員の経験や職種に応じた施設内外の研修機会を確保している。研修報告書や自己申告書等により受講状況や技術水準を把握するとともに、OJTや日常業務での関わりを通じて上長に相談しやすい環境づくりに配慮している。さらに、寮長や基幹的職員を中心としたスーパービジョン体制の整備や大学教授によるスーパーバイズを実施し、職員の専門性の深化と組織力の強化に取り組んでいる。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取り組みをしている。	a
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画に実習生の受け入れに関する基本姿勢と方針を明文化し、実習マニュアルに基づき受け入れている。保育士や社会福祉士等の専門性に合わせたプログラムを整備し、事前オリエンテーションやニーズに応じた専門職員による講話を実施している。実習生の養育・支援に関わる専門職の研修・育成体制を整備し、効果的なプログラムを用意するなど積極的に取り組んでいる。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取り組みが行われている。

① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取り組みの実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

インターネットや広報誌を通じて、施設の目的や法人理念、養育・支援内容、事業計画、決算報告、苦情・相談体制等を公開している。第三者評価の受審結果も施設・県・全国社会福祉協議会の各ホームページで公表している。また、機関誌の作成・配布により、入所している子どもや保護者に加え地域社会に対して施設の存在意義や役割の周知に取り組んでいる。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みが行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

就業規則に付随する各種規程や業務分掌に基づき職務分掌と権限を明確化し、職員に周知している。法人内監査を定期的実施するとともに行政監査を受審し、指摘事項については改善を行っている。財務状況は社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムにより公表しており、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営に向けた取り組みを組織的に行っている。

#### 4 地域との交流、地域貢献

##### (1) 地域との関係が適切に確保されている。

①	23 こどもと地域との交流を広げるための取り組みを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設やこどもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

職員は、地域行事や活動への参加をこどもに働きかけるとともに、自らもPTA行事やあいさつ運動等に参加し、こどもが地域の一員として生活できるよう配慮している。買い物や遊び、通塾等の日常活動の範囲は年齢や成長をふまえて適切に設定している。また、地域のこどもが来園しやすいよう学園祭りや足浴開放等の行事を企画・開催している。

②	24 ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受け入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティア受け入れに関する基本姿勢をホームページや広報誌に明記している。受け入れの目的や手順、実施時の配慮事項を文書化し、担当職員が一定の手順に基づき対応している。今後は、地域の学校教育への協力に関する基本姿勢を明文化するなど、社会福祉の知識と専門性を有する社会資源として、地域の学校教育への関与を一層深めることを期待したい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

個々のこどもの状況に対応可能な社会資源を整理したリストを作成し、職員間で共有している。学校や児童相談所、市町の子育て支援課等の関係機関とは定期的に連絡会を開催している。また、幼稚園や学校のPTA役員の担当や地域健全育成活動への参画等を通じて地域活動にも積極的に関与している。こどもへのより良質な養育・支援の実施に向け、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に把握し、適切な連携に取り組んでいる。

(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。

① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取り組みが行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

行事を企画し地域や関係機関に案内するとともに、各種会合や行事に積極的に参加するなど地域住民との交流を図り、福祉ニーズの把握に努めている。職員が地域へ出向き課題改善に取り組むことで信頼関係の構築を図っている。また、施設の専門性や特性を生かし地域住民の多様な相談に対応できるよう、相談事業の体制整備に取り組んでいる。

② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取り組みを積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取り組みを行っている。	○

【コメント】

あいさつ運動や防災訓練、清掃等地域の活動に施設全体で積極的に参加している。施設は避難場所としての立地条件に制約があるものの、十分な備蓄品を確保し被災時の地域支援を可能としている。さらに、他地域での災害発生時に備えDWA T研修に参加している。今後は、施設が有する養育ノウハウを地域に還元する観点から、相談事業の効果的な実施に向けた取り組みに期待したい。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 こども本位の養育・支援

(1) こどもを尊重する姿勢が明示されている。

① 28 こどもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、こどもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

**【コメント】**

基本方針の一つとしてこどもの権利擁護を明示し、施設内に掲示している。職員は「こどもとのかかわりを振り返ってみよう」を携帯し、意見交換や自己の取り組みを振り返る機会の確保、諸会議での倫理綱領の読み合わせ、人権擁護チェックリストの活用、アドボカシー研修の実施等を通じて、こどもを尊重した養育・支援の実践に取り組んでいる。

② 29 こどものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
<input type="checkbox"/> こどものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 一人ひとりのこどもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、こどものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> こどもや保護者等にプライバシー保護に関する取り組みを周知している。	○

**【コメント】**

個人情報保護取扱マニュアルに基づき、こどものプライバシーに配慮した支援を行っている。こどもや保護者には入所時に資料を配布し、プライバシー保護に関する取り組みを説明するとともに、話し合いの機会を設け継続的な周知を図っている。さらに、男女の生活空間や動線の分離、他児居室への立入り制限、中高生の可能な範囲での個室化等により、こどもが安心して生活できる環境づくりに配慮している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 こどもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定のこどもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/> こどもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

**【コメント】**

ホームページや広報誌にこどもの様子や施設の活動を掲載している。広報誌は季節行事の様子を写真付きで紹介し、こどもにも理解しやすい内容にしている。入所前の面会や施設見学時には、平易な言葉や写真を用いた資料を配布し生活上のルールを個別に説明している。また、こどもや保護者からの要望には諸否を十分検討したうえで丁寧な説明を行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所際には、児童相談所のケースワーカー同席のもと、子どもが施設生活の見通しを持てるよう入所前見学や資料を活用し丁寧な説明に努めている。説明資料は年齢に応じて作成し理解しやすい内容にしている。保護者には面会・通信制限を文書で相互確認するとともに、入所後はお便りや広報誌により養育・支援の様子を伝え、理解を得ながら支援を行うよう配慮している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

入所前には、子どものこれまでの生活状況を丁寧に聴取し、安心して施設生活を開始できるよう体制を整備している。措置変更により退所する場合は、移行先の施設や里親等に養育・支援内容を引継ぎ文書により説明するよう努めている。退所後は子どもや保護者に家庭支援専用SNSを案内し、状況把握や相談対応を行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取り組みを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

自立支援計画評価表の見直し時には、子どもの要望や意見を聴取し、計画に反映させている。センターワーカーや児童相談所のケースワーカー等の専門職員と子どもとの話し合いの機会の確保、子ども同士が話し合う場の提供、アンケートの実施等により、子どもの満足度を把握する取り組みを行っている。把握した内容は、養育・支援のための各種計画や日常の支援に反映させており、子どもの満足を把握する仕組みを整備し、機能させている。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、こどもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出たこどもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取り組みが行われている。	○

【コメント】

法人の苦情処理要綱に基づき施設の苦情処理細則を整備している。こどもや保護者には資料配布や施設内掲示により苦情解決の仕組みを周知し、匿名苦情箱の設置や保護者アンケートの実施等申し出やすい環境づくりに取り組んでいる。収集した苦情は規程に則り適切に対応し、職員間で共有して養育・支援に生かしている。

②	35 こどもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、こども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> こどもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取り組みを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

こどもアドボカシーを導入し、こどもには施設外の大人にも相談できることを周知している。職員は落ち着いた場所に対応するなど安心して思いを伝えられる環境を整備している。保護者に対しても、苦情箱の設置や家庭通信での案内、アンケートの実施等により相談や意見を述べやすい体制を整え、把握した内容を支援に反映している。

③	36 こどもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、こどもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、こどもの意見を積極的に把握する取り組みを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取り組みが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

苦情箱や日々の関わりで得たこどもの意見は、その日の引継ぎや会議で検討・改善され、職員は、細かなことでも丁寧に説明するよう意欲的に取り組んでいる。対応に時間や外部協力が必要な場合は、進捗状況や見通しをこどもに説明し、改善の内容を日常の養育・支援に反映している。意見対応と改善はルール化され、定期的に見直し全職員で共有している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取り組みが行われている。

① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化（リスクマネジャーの選任・配置）、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順（マニュアル）等を明確にし、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取り組みが行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

様々な危機を想定し、責任者を明確にした各種委員会を設置している。ヒヤリハットについては、継続的な取り組みが確認できるよう報告書を整備し、発生の都度職員間で共有している。また、報告内容は各種対応マニュアルの見直しに反映させている。さらに、施設の定期点検や訓練・研修など、事故防止や対応方法に関するあらゆる取り組みを実施している。こどもが安心・安全に過ごせる環境で養育・支援を行うためのリスクマネジメント体制が構築されている。

② 38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取り組みを行っている。	a
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	○
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症対策委員会を設置し、感染症の予防や発生時における対応を検討している。施設長や看護師の指導のもと、予防や発症時の対応を組織的に講じている。また、感染症予防に関するマニュアルを整備し、研修や勉強会を通じて職員に周知徹底するとともに、適宜見直しを行っている。こどもの安全確保のための体制を整備しており、それが十分に機能している。

③ 39 災害時におけるこどもの安全確保のための取り組みを組織的に行っている。	a
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」（BCP）を定め、必要な対策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> こども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。	○

【コメント】

火災や地震等災害別の対応マニュアルを整備し、それぞれの災害の発生を想定した研修や避難訓練を定期的を実施している。食料・備品・日用品等の備蓄は、それぞれ担当者を設けて管理している。保護者に対しても、入所時に施設の災害時における対応を説明している。全てのこどもの安全を確保できるよう、組織的に災害対応の取り組みを行っている。

## 2 養育・支援の質の確保

### (1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。

① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、こどもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

#### 【コメント】

事業計画や自立支援計画、業務マニュアルには、こどもの尊重や権利擁護、プライバシーの保護に関わる姿勢、養育・支援の標準的な実施方法を明記している。職員によって養育・支援の方法に差異が生じないように、年度当初に各グループ内で業務マニュアルの読み合わせを行っている。さらに、毎月のグループミーティングで標準的な実施方法や考え方を確認し、継続して職員の共通理解を図っている。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員やこども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

#### 【コメント】

事業計画や自立支援計画等に定めた標準的な養育・支援の方法については、各種記録や日誌、職員の意見、日々の支援状況およびこどもの様子・意向等を参考に、あらかじめ定めた時期と方法で検証し、見直しを行っている。組織的に標準的な養育・支援の方法を見直す仕組みが確立されており、施設全体で養育・支援の質の向上に努めている。

### (2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、こども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、こどもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

#### 【コメント】

自立支援計画評価表は、基幹的職員を責任者として、グループ担当者、ユニット・グループの各リーダー、寮長、ファミリーソーシャルワーカー、心理療法担当職員、里親支援専門相談員、個別対応職員、看護師が参画して策定している。また、策定・見直しの都度、こどもの意向を確認し、それを反映させている。適宜、施設内外で検討会を実施し、外部の専門家による助言を受けるほか、必要に応じて医療機関に相談している。

② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、こどもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

養育・支援の実施状況は、日々の育成記録やミーティング等の記録により確認できる。自立支援計画評価表の評価と見直し、緊急的な計画変更は、それぞれのマニュアルに沿って実施している。自立支援計画評価表を策定、変更および評価する際は、関係職員の知見やこどもの意向をふまえ、より良質な養育・支援を行うため、こどもの個別的な状況に応じた課題を具体的に把握して行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

① 44 こどもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取り組みがなされている。	○
<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

養育・支援の実施状況の記録方法はマニュアル化しており、職員によって差異が生じないように、リーダーが指導および確認を行っている。記録方法のマニュアルは定期的に見直し、職員への周知を図っている。必要な情報が関係職員に適宜届くよう、諸会議や回覧、引継ぎ、パソコンの共有フォルダーの活用等、あらゆる方法を用いて報告し共有している。

② 45 こどもに関する記録の管理体制が確立している。	a
<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、こどもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

施設長を記録管理の責任者としている。個人情報保護に関する規程を整備し、職員に対して定期的な周知を図っているほか、こどもや保護者に対しても、文書や口頭での説明により、施設の個人情報保護の取り組みについて理解を促している。また、こどもと職員が使用するネットワークを分ける、こどもについて記録するパソコンや書類はこどもが入れない場所に保管し、閲覧権限やパスワードを設定するなど、こどもの記録を適切に管理するための体制が構築されている。

内容評価基準 (24項目)

A-1 こどもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) こどもの権利擁護

① A1 こどもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている。	a
<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護に関する取り組みが周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取り組みについて職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取り組みを行っている。	○
<input type="checkbox"/> こどもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

施設では、安心・安全マニュアルを整備し、こどもの権利擁護が施設の全業務において最優先されるべきであるという考えを職員に明確に示している。職員は、諸会議や業務中の相互確認により常に理解を深め、全員が共通認識を持って実践している。また、子どもに対しては権利ノートを活用し、日常生活の中でこどもの権利理解を促す取り組みを行っている。さらに、施設として宗教的活動を行わないなど、こどもの権利擁護に適切に取り組んでいる。

(2) 権利について理解を促す取り組み

① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取り組みを実施している。	b
<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
<input type="checkbox"/> こどもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
<input type="checkbox"/> 職員間でこどもの権利に関する学習機会を持っている。	○
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

自他の権利については、権利ノートの活用や子どもとの話し合いを通じて、全体的・個別的に共に考える機会を適宜確保している。職員は常に権利擁護を意識して子どもと関わり、子どもが正しい理解を深められるよう努めている。しかしながら、こどもの入所背景も影響し、人間関係のトラブルや自傷行為等は施設の長年の課題となっている。今後も継続してより良い方策を模索することにより、子どもが施設での生活を通して自他の権利に関する正しい理解をさらに深められることが期待される。

(3) 生き立ちを振り返る取り組み

① A3 こどもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取り組みを行っている。	a
<input type="checkbox"/> こどもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、こどもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、こどもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもに生き立ちを伝える場合は、職員間で緊密に連携し、児童相談所や家族との調整を行ったうえで、こどもの状況や気持ちに寄り添い慎重に実施している。子どもが生き立ちを振り返る際には、変容を十分に観察し、必要に応じてメンタルクリニックや学校と連携して支援や見守りを行っている。また、子ども一人ひとりにアルバムを用意し、担当職員が適宜子どもと写真を整理するなど、日常的な関わりを通じて自己理解を深める工夫も行われている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 こどもに対する不適切な関わりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切な関わり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・こども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
<input type="checkbox"/> 不適切な関わりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切な関わりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
<input type="checkbox"/> こどもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切な関わりの具体的な例を示して、こどもに周知し、こども自らが訴えることができるようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料をこども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、こどもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

安心安全マニュアルに基づき、職員間で不適切な関わりの早期発見と予防について共有し、検証を行うことで、職員の規範意識を高めている。こどもには、困ったときの訴え方や施設内外の大人に相談できることなどを継続して伝え、意識醸成を図っている。施設内での対応が困難な場合には、第三者委員会や外部の関係機関の協力を得られるよう体制を構築している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

① A5 こどものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> こどもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、こどもの不安を軽減できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
<input type="checkbox"/> こどもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更、里親等委託にあたり、こどもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所前には、職員との面会や施設見学を行い、あらかじめこどもの好きな色やキャラクターを把握してそれに合わせた入所準備を行うほか、職員と一緒に生活用品や学用品を購入するなど、児童相談所と連携して入所時のこどもの不安を軽減できるよう努めている。退所後のこどもについては、退所前にアフターケアの内容を丁寧に説明し、退所後に家庭訪問を行うなど、こどもが安定した生活を送ることができるよう支援している。

② A6 こどもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> こどものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所しているこどもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所を控えたこどもには、退所後の生活を見据えた話し合いの機会を設けている。外部のアフターケア事業を活用し、退所後も支援を受けられるよう配慮するとともに、施設としても退所後の窓口を伝え、個々のニーズに応じたアフターケアを実施し、その記録を保管している。退所者には学園祭の案内を行っているが、今後はアフターケアの方針を明文化すること、退所者が集まれる機会や退所者と職員が交流する機会を充実させることなど、退所後の支援がより一層図られることが期待される。

## A-2 養育・支援の質の確保

### (1) 養育・支援の基本

① A7 こどもを理解し、こどもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいてこどもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、こどもと共に課題に向き合っている。	○
<input type="checkbox"/> こどもの生育歴を知り、そのときどきでこどもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
<input type="checkbox"/> こどもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、こどもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	○
<input type="checkbox"/> こどもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/> こどもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

職員は、こども一人ひとりについての理解を深め、特性や発達に応じて表出する課題を職員間で共有し、現状における最善の養育・支援を実施するよう心掛けている。こどもの担当職員に加え、各種専門職員も参画し、施設全体でこども一人ひとりの内面理解を深めている。こどもアドボカシーの導入や日々の養育・支援を通じて、施設全体でこどもが表出する感情や言動を丁寧に受容しようとする意識が醸成されている。

② A8 基本的欲求の充足が、こどもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/> こども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、こどもと職員との関係性を重視している。	○
<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内でこどもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
<input type="checkbox"/> こどもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々のこどもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員とこどもが個別に接する時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

職員は、こども一人ひとりの基本的欲求が満たされるよう、常に心身の状態の把握に努めながら、家庭に近い環境でこどもが過ごせるよう支援している。生活上の決まりは施設全体に周知しているが、日課も含めてこどもとの話し合いや職員の裁量により柔軟に対応できるようにしている。宿直者の居場所を明確にし、夜間においてもこどもが安心して過ごせるよう配慮している。

③ A9 こどもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、こども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取り組みを職員とこどもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
<input type="checkbox"/> こどもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
<input type="checkbox"/> こどもがやらなければならないことや当然できることについては、こども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
<input type="checkbox"/> こどもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

生活のルールをこども同士で考える機会や一人で買い物をする機会を設けるなど、職員はこどもの自信や自主性を育めるよう働きかけや見守りを行っている。しかしながら、施設としてはこどもの主体性の乏しさを感じており、利用者調査からも同様の様子がうかがわれた。今後も継続してこどもが主体的に活動できる場を充実させるなどし、より一層こどもの主体性が育まれる環境づくりが期待される。

④ A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
<input type="checkbox"/> こどものニーズに応えられない場合、こどもがきちんと納得できる説明がされている。	○
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
<input type="checkbox"/> こどもの学びや遊びを保障するための、資源（専門機関やボランティア等）が十分に活用されている。	○

【コメント】

こどもの年齢や発達状況に応じた養育・支援が実施できるよう、保育プログラムや個別の自立支援計画評価表を策定している。塾や習い事、スポーツ、買い物、外出、戸外遊び等については、可能な限りこどもの意見や要望に応じており、応えられない場合にはこどもが納得できるよう真摯に説明している。加えて、公共施設の利用を促すことやボランティアとのふれあいの機会を確保すること等により、こどもの学びや遊びの場を保障するよう努めている。

⑤ A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/> こどもが社会生活をいとなむうえでの必要な知識や技術を日常的に伝え、こどもがそれらを習得できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> こどもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

職員は、健康の保持や衛生管理、安全についてこどもが理解し、その方法を身につけられるよう日常的に働きかけを行っている。また、携帯電話やSNSの使用方法をルール化し、正しい使い方や危険性を理解できるよう支援している。こどもの個々の成育歴や発達等の特性に応じて、施設での生活を通して社会的常識が培われるよう、個別的かつ丁寧に支援している。

(2) 食生活

① A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 食事時間が他のこどもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員とこども、そしてこども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況やこどもの嗜好を把握するための取り組みがなされ、それが献立に反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

こどもの年齢や生活状況に応じて、食事の提供時間や量・内容を調整し、こどもがおいしく適温で食べられるよう配慮している。残食状況の把握や嗜好調査を定期的実施することで、こどもの嗜好の把握に努め、献立に反映させている。こどもと一緒に食事やおやつを作る機会を設けるなど、こどもが楽しみながらおいしく食事できるよう工夫している。利用者調査からも、こどもが日々の食事を楽しみにしている様子がうかがわれた。

(3) 衣生活

① A13 衣類が十分に確保され、こどもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理をこどもの見えるところで行うよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 衣服を通じてこどもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせてこども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

職員は、こどもが清潔で自分の体に合った衣服を常に着用できるよう、気候や生活場面、汚れの状況に応じて着替えや衣服管理の支援を行っている。こどもの好みやサイズに合った衣服を選ぶことができるよう、購入の機会を設けている。さらに、洗濯やアイロンかけ、補修等の衣服管理をこどもの生活の場で行い、日常生活を通して衣習慣を習得できるよう支援している。

(4) 住生活

① A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるようにこども一人ひとりの居場所を確保している。	a
<input type="checkbox"/> こどもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 発達やこどもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

職員が中心となって、こどもが生活する場の清掃や整理整頓を行っているが、小学生には休日に職員と一緒に居室の片付けを行い、中高生には洗濯や布団干しの声掛けを行うなど、年齢に応じて清掃や整理整頓の習慣が身につくよう支援している。また、共有スペースがくつろげる雰囲気となるよう季節に合わせて飾り付けを行うほか、個人所有の生活用品や個室を確保するなど、こども一人ひとりが安心して過ごせる居場所づくりに配慮している。

(5) 健康と安全

① A15 医療機関と連携して一人ひとりのこどもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> こどもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的にこどもの健康管理に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要するこどもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、こどもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要なこどもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

嘱託医による健康診断や身体測定、幼児の排便チェックに加え、手洗い・うがい・消毒の働きかけや日々の養育・支援を通じた観察により、施設全体で日常的にこどもの健康管理に努めている。服薬については、こどもがその必要性を認識できるよう説明したうえで、適切に行えるよう支援している。加えて、職員はこども一人ひとりの心身の健康を管理できるよう、講習や勉強会等を通じて医療や健康に関する知識を深めている。

(6) 性に関する教育

① A16 こどもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、こどもの疑問や不安に答えている。	
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

こどもの年齢や発達状況に応じて、性について正しく理解できるよう、性差や男女交際、プライベートスペース等に関し、職員間でよりよい養育・支援の方法を常に検討し実施しているが、施設としては困難を感じている様子もうかがわれた。今後は、子どもに向けた性に関するカリキュラムの作成や学習会の機会確保等により、性に関する支援の実効性がより一層高まることが期待される。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A17 こどもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲のこどもの安全を図る配慮がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、こどもの行動上の問題の軽減に寄与している。またこどもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

こどもの暴力や不適応行動が発生した場合には、職員は周囲のこどもの安全に配慮しながら、当該こどもの話に傾聴し、諭すように関わっている。また、暴力を受けた職員や子どもに対して精神的ケアを実施するとともに、施設内外の研修やケース会による検討等を通じて子どもへの理解を深め、適切な支援技術の習得に努めている。施設のすべての子どもに適切な対応が図られるよう、施設全体で丁寧に取り組んでいる。

② A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、こどもがそれを感じ取れるようになっている。こども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
<input type="checkbox"/> こども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	

【コメント】

子ども同士の相性や個性に配慮し、必要に応じて生活グループの見直しや職員の断続勤務等の対応を行っている。特別な配慮の必要性やこども間の問題が生じた場合には、児童相談所と協議している。施設内の問題の発生予防や早期発見・早期解決に意欲的に取り組んでいるが、施設は、こども間の性的加害・被害への対応には改善の余地があると捉えている。今後も、こどもが性に関する正しい知識を得られるよう支援方法を検討し、こども間の性暴力について適切な対応が図られることを期待したい。

(8) 心理的ケア

① A19 心理的ケアが必要なこどもに対して心理的な支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とするこどもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要なこどもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となるこどもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理的ケアを必要とするこどもについては、個々の自立支援計画に基づき心理支援プログラムを策定し、心理面接で得た情報や、児童相談所の専門職員および外部の医師からの助言等を職員間で共有して養育・支援に反映させている。今後は、心理担当以外の職員の専門性向上にも取り組むなど、施設全体でより有効な心理的ケアが実施されることを期待したい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

① A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常にこども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
<input type="checkbox"/> 学力が低いこどもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、こどもに応じた支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 障害のあるこどものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

居室に学習机を設置し、寮舎には共有の学習スペースを確保している。学校と日常的に連携し、可能な限りこどもの学習状況の把握に努めている。小学生には職員が学習支援を行い、中高生は本人の希望に応じて学習塾を利用できる。特別な支援を要するこどもについては、保護者や学校、児童相談所、医療機関等と情報共有を図り、本人の意向に沿って支援している。

② A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、こどもに判断材料を提供し、こどもと十分に話し合っている。	○
<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となったこどもへの支援のなかで、就労（支援）しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望するこどものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職したこどもであっても、不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

自己決定により進路を選択できるよう、関係機関や保護者と情報共有を図り、個別に進路情報の提供や相談支援を行っている。高校卒業後に進学したこどもについても、必要に応じて措置延長により支援を継続している。高校中退や中学校卒業後に就職するこどもについては、退所後も適切な支援を受けながら社会経験を積めるよう、自立援助ホームやアフターケア等の外部支援に繋げている。

③ A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、こどもの自立支援に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

こどもがアルバイトを希望した場合は、職員と相談して勤務先を決定し、働く責任について話し合う機会を設けている。必要に応じて勤務先と連携し、こどもの状況を共有している。実習や職場体験については、施設自ら実習先を開拓・斡旋する体制とはなっていないため、今後は、こどもの社会経験の拡大に資する取り組みをより意欲的に進めることを期待したい。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所がこどもの成長とともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れこどもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後のこどもの様子を注意深く観察し、不適切な関わりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> こどもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

専任の家庭支援専門相談員を中心に、児童相談所と連携して個々のケースに応じた家庭支援を実施している。施設は、保護者にこどもの様子や成長を伝え、家族との信頼関係の構築に取り組んでいる。こどもと家族の面会・外出・一時帰宅については、入所時に文書および口頭で家族に説明し、面会等の終了後は保護者・こども双方から様子を聞き取り、詳細な把握に努めている。組織的に家族関係の調整を図り、家族からの相談にも丁寧に対応している。

(11) 親子関係の再構築支援

① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取り組みを可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取り組みを行っている。	○

【コメント】

家庭支援の方針を明確にし、職員はその内容を理解している。児童相談所や行政担当者と情報を共有しながら関係機関と連携し、家庭訪問の頻度や家庭復帰に向けた課題等を検討して、個々の状況・状態に応じた適切なペースで支援を実施できるよう努めている。親子交流の前後には、保護者およびこどもの様子を注意深く観察し、丁寧な聴取を通じて親子関係の把握を図るとともに、関係改善に向けた支援方策を検討し実施している。